

令和5年度第1回鮫川村まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議

日時:令和5年6月13日(火)

午後1時15分～

場所:鮫川村役場2階正庁

次 第

進行:村づくり推進室長

1. 開 会

2. あいさつ 鮫川村長 関根 政雄

3. 新委員紹介

4. 会長、副会長の選出について

会長 _____ 委員、副会長 _____ 委員

5. 議事

(1) 鮫川村まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

① 効果検証について

② 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和4年度 検証・評価・見直しシート(案)

③ 今後のスケジュール

6. その他

7. 閉 会

鮫川村ひと・まち・しごと創生有識者会議委員

所属団体等	氏名	備考
東京農業大学 教授	入江 彰昭	
JA東西しらかわ 営農部次長	薄葉 正勝	
鮫川運送(株) 代表取締役社長	芳賀 篤徳	
手まめ館 館長	佐藤 文雄	
鮫川村商工会青年部 部長	窪木 浩一	
鮫川村商工会女性部 部長	我妻 久美子	
区長会 会長	石井 哲	
語り部の会 会長 筋力づくりサポーター	蛭田 ノリ子	
地域包括支援センター ケアマネージャー	藤元 良子	
主任児童員	松崎 幸子	
教育委員会教育長職務代理者	阿久津 光市	
村PTA連合会 会長	関根 成人	
村中学校PTA 副会長	関根 巨樹	
学校法人石川高等学校 教諭	矢吹 靖弘	
こどもセンター 保護者会 会長	須藤 尚紀	

鮫川村役場職員 有識者会議出席者

所属	職名	氏名
総務課	課長	渡邊 敬
地域整備課	課長	齋藤 利己
農林商工課	課長	舟木 正博
住民福祉課	課長補佐	鈴木 庄悟
教育課	生涯学習係長	矢吹 清勝
こどもセンター	主任主事	蛭田 直人
事務局		
村づくり推進室	室長	矢吹 かおり
	村づくり推進係長	矢吹 直美
	主査	宇佐見 純平
	主任主事	藤田 冬華

鮫川村まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱

(設置)

第1条 まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条第1項に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）を策定するため、鮫川村まち・ひと・しごと創生有識者会議（以下「有識者会議」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 有識者会議は、鮫川村まち・ひと・しごと創生本部（以下「本部」という。）が策定した人口ビジョン・総合戦略案に対して、意見及び提案並びに施策の効果検証を行う。

(組織)

第3条 有識者会議は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、村長が委嘱する。

(1) 一般住民、商工関係、金融関係、労働関係、学識経験者等の中から村長が委嘱する

(2) 前号に掲げるもののほか、村長が認める者

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。

2 前項の規定にかかわらず、特定の地位や職により委嘱された委員の任期は、当該地位又は職にある期間とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長)

第5条 有識者会議に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、有識者会議を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 有識者会議の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて会長が招集し、その議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。ただし、次条第1項の規定により、書面表決等があった場合は、この限りではない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面表決等)

第7条 止むを得ない事情により、委員が会議に出席できない場合において、書面表決又はオンラインによる参加、意見書の提出等があった場合は、会議に出席したものとみなす。

2 前項の場合、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和31

年鮫川村条例第8号)に規定する報酬を委員に支給することができる。

(庶務)

第8条 有識者会議の庶務は、村づくり推進室村づくり推進係において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、有識者会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

鮫川村まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

1 総合戦略の効果検証について

地方創生の推進にあたり、効果的なPDCAサイクルの構築が必要となります。

PDCAサイクルの構築には、行政活動そのものの結果（アウトプット）ではなく、その結果として住民にもたらされた便益（アウトカム）に関する数値目標を定め、目標の達成度合いを検証できるよう、客観的な指標を定める必要があります。

鮫川村では、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略において、3つの柱に「数値目標」、主要施策等に「重要業績指標（KPI）」を設定しています。

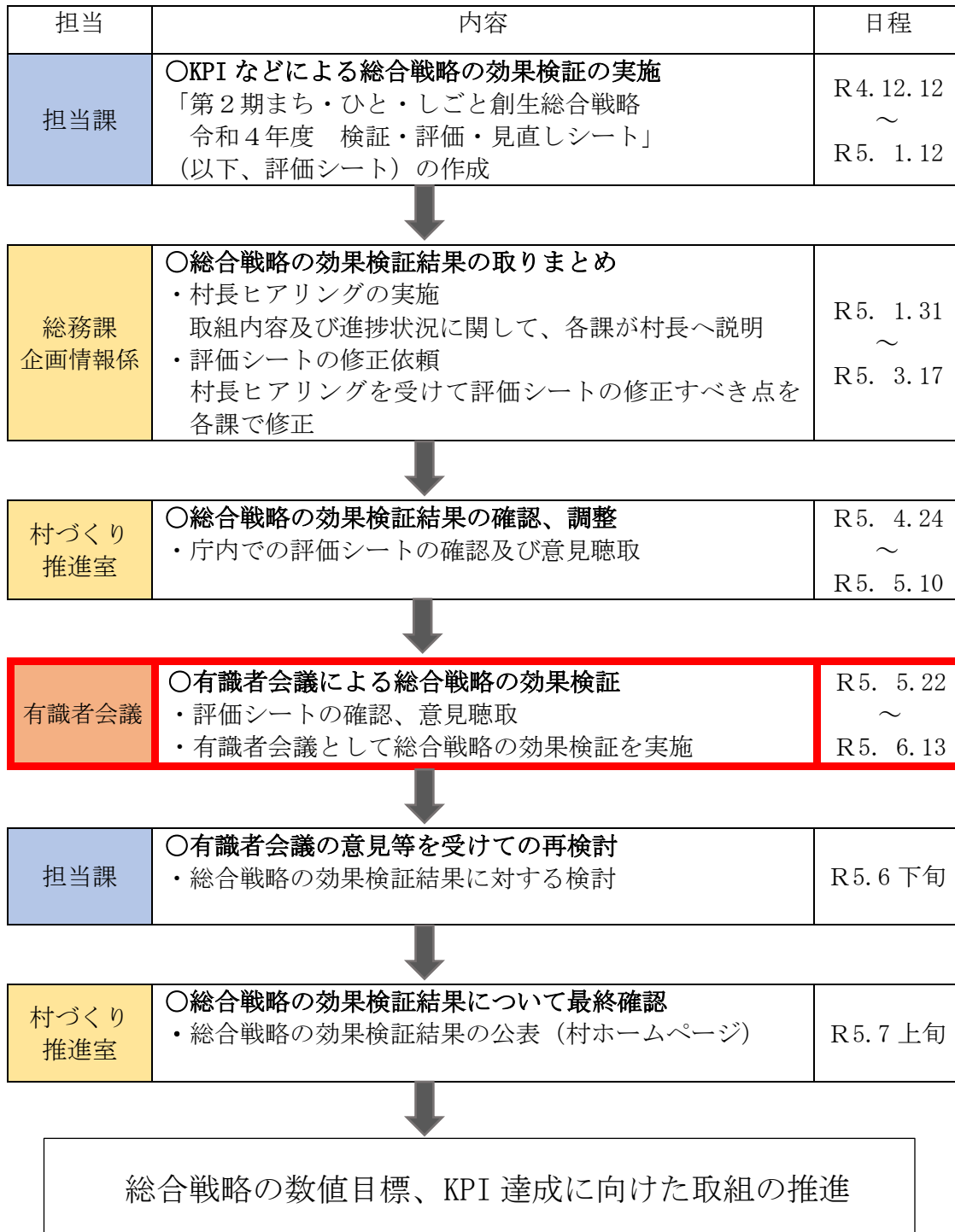
また、鮫川村では、鮫川村まち・ひと・しごと創生有識者会議を外部検証機関として位置付け、効果検証にあたり、意見等をいただくこととしています。



図は基本目標に沿った、点検・評価が毎年度実施され、事業の実績や検証結果をもとに、8つのプロジェクトを展開し、PDCAサイクルを繰り返すことで、「自らが考え、私たちの集落を豊かにする村づくり」が実現され、村民の幸福度が向上していくことを示しています。

2 効果検証の方法

総合戦略の効果検証は、次の流れで行います。



第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和4年度 検証・評価・見直しシートに関する意見について

資料 2

有識者会議委員名 (順不同、敬称略)	所属団体等	事前にいただいたご意見	回答
入江 彰昭	東京農業大学 教授	<p>①子どもたちの教育 自信と誇りの学びの充実 里山の食と農、環境とのつながりとその活動を見える化</p> <p>②森林資源の利活用 木質系バイオマス、薪と炭の収集、加工、出荷について再構築とCO2の見える化</p> <p>③交流連携 流域連携、農村都市交流、源流域の文化・景観・暮らし等の体験 東京鮫川会の方々</p> <p>④大学連携 小中高校生、30~40代の住民、地元農家の方々と暮らしとの交流の機会</p> <p>コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻等を受けて、これまでの競争社会から、支えあい・つながり合う共生社会の働き方・暮らし方への価値意識が高まっております。すなわち、鮫川村のようなローカルに人と人がつながりあい、交流連携し、食と農、バイオマスの循環型の地域づくりが健康・教育・災害に強いレジリエンス（回復力、しなやかさ）のある社会の理想郷の一つとして一般化するでしょう。この動きは、農山漁村の生業環境を社会的共通資本としてとらえ、これまでの分業化・消費型から生産・加工・流通・消費の統合化の循環シェアリング型の社会や、農工商や都市農村、流域等の連携協働の生業へと生活様式や産業の変化を加速させる時代を示唆するものです。</p> <p>鮫川村では、地域づくりの基底ベースを豊かな自然環境とし、自然を活かした里山の資源循環型の農林業の生業と暮らしの社会を特徴とし、その社会を動かすためにこれまでのものと新たな経営をパートナーシップのみんなで行き届くようなストーリーをつくることもできます。</p> <p>これまでの、ないものねだりの脱却とあるもの探しによる地域づくり、まめな村の環境・健康の村づくりによる自然再生エネルギーの推進、CO2排出量の抑制、村内自給率向上の学校給食メニュー開発といった環境・健康・教育の取組みと里山の景観づくりを役場や村民の暮らしの隅々まで浸透させ強化していくことは、環境への価値意識と自然暮らしの志向が高まっている都市部をはじめとする村外住民にとっては魅力的な観光資源となり、関係人口を含め、賑わいの創出に貢献することになると考えます。</p> <p>四季折々の源流域の豊かな自然環境を村民の大切にしたい風景として資産とし、都市農村交流をはじめ上流と下流域との流域連携のパートナーシップの共生社会を構築することを提案したい。なぜなら、気候変動に伴う大災害時代において、流域全体で防災・減災の地域づくり、流域圏グリーンインフラで考えることが重要であるからです。上流と下流域との流域連携、食やバイオマスの循環、教育、健康、レクリエーションなどの日常的つきあいが、有事の時には助けあい・支えあいのレジリエンス（回復力、しなやかさ）のある社会となります。</p>	<p>①評価シートについて、別紙のとおり修正します。</p> <p>②森林資源の利活用については、木質系バイオマスの再構築とCO2の見える化について、入江先生からのアドバイスを受けて評価シートの修正を行います。</p> <p>③村の景観を維持していくために村内外の人を対象として令和5年度に草刈り応援隊「美活動刈り上げ鮫（ジョーズ）」を実施する予定です。これは、草刈りができる人材を募集し、安全講習を行ったうえで、地域の草刈りへ行ってもらう制度です。この事業により、村の厄介事である「草刈り」に新たな価値を見出し交流人口の増加をねらいます。</p> <p>④ご意見として承りました。</p> <p>流域連携のパートナーシップの共生社会を構築するご提案については、防災・減災の地域づくりの観点からできるだけ早急に取組む必要があるものの、担い手が少ない中での水田活用に関する地域住民の理解や協力を得るためには時間を要することから、次期計画に反映させられるように今後検討していきます。</p>
石井 哲	区長会 会長	<p>総合戦略（第2期）評価シートP19</p> <p>①賑わいの核となる公園整備 取り組んでいない成果なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進上の課題「村の中心部の定義」 ・新たな取組や見直しの方向「村の中心部が決まり、公園整備を決定した後、公園整備に取り掛かる。」 <p>総合戦略が第2期に至っているにも関わらず、村の中心部の定義が共通認識されていないというのは、いかがなものでしょうか。</p> <p>P20「中心地域の賑わいづくり」等でも使用されているように、これまでいろいろな計画等においても鮫川村の中心部の捉え方は職員の共通認識であったと思われまます。</p>	<p>評価シートについて、別紙のとおり修正します。</p>

有識者会議委員名 (順不同、敬称略)	所属団体等	事前にいただいたご意見	回答
松崎 幸子	主任児童員	<p>①村のイメージを少しでも明るくしていくために、休耕田に花を植えることを推進していくのはどうか？</p> <p>②国の中山間事業がなくなってしまうのではないかという話を聞いた。 国からの支援が無くなっても同じような形で村民が景観を気にして力を合わせて守っていけるような支援を考えてほしい。 (私の部落はまとまりよく力を合わせて事業に取り組んでいる。)</p> <p>③ひだまり荘とこどもセンターでふれあいの時間を持ってほしい。 日常生活の中で、お互いのふれあう場が少なくなっている家庭も多いと思う。お互いの存在を肌で感じる事はとても大切な事だと思う。 お年寄りも元気になる子ども達の情操教育にもつながる</p> <p>④手まめ館の作業場(旧給食センター)の内装(壁と床)のリフォームが必要な状況になってきていると思う。 村民や村外の人も活用する機会が多くなっているし、イメージ的にも衛生的にも改善して欲しい。</p>	<p>ご意見として承りました。 いただきましたご意見は関係部署へ情報提供し、具体的な取り組みを行う際の参考とさせていただきますと思います。</p>
窪木 浩一	鮫川村商工会青年部 部長	<p>①子育て支援等は昨今充実している感はあるが、今後は独身(単身者)等にも何かしらの村に住むメリットや補助を考えてほしいとの意見を身近な方から言われました。</p> <p>②村をPRしていく際に単発のイベントを行うのではなく、いつでも鮫川にすれば、名物や体験などが出来る様にしてほしいとの意見がありました。</p> <p>③手まめ館の駐車場が小さくて、帰省の際に立ち寄りしようと思ったが、駐車スペースが無くて寄るのをやめたらしく、もっと広い駐車場にするか、広い所に移転した方が集客につながるのでは？との意見がありました。</p>	<p>ご意見として承りました。 いただきましたご意見は関係部署へ情報提供し、具体的な取り組みを行う際の参考とさせていただきますと思います。</p>
阿久津 光市	教育委員会 教育長職務代理者	<p>①子育て支援事業の充実について 他町村に比べると、特に鮫川村は少子化及び核家族化が顕著であると思います。 放課後児童クラブの需要が高まると予想されますので、早急な指導者の確保と指導者のスキルアップが必要であると感じております。</p> <p>②ふるさとキャリア教育について 少なくなった子供たちを、どう育てるかがこれからの課題であると思います。 ふるさとキャリア教育により、将来鮫川に住んで、この鮫川村を担う次世代の人材の育成に期待いたします。</p> <p>③産業振興と担い手育成について ここ数年で村内では、遊休耕地・荒廃農地・耕作放棄地が特に増えてきたように感じ、里山の景観が失われつつあります。 また、村の基幹産業である農業を考えた時、5年後、10年後はどうなるのだろうと危機感を覚えます。早急な対策を期待いたします。</p> <p>新型コロナウイルスは2類から5類に移行され、ウィズコロナ、いわゆるコロナとの共生の時代に突入したと言えます。 これまでコロナ禍により、思うように出来なかった事業等も今まで以上に活性化されることを期待いたします。</p>	<p>ご意見として承りました。 いただきましたご意見は関係部署へ情報提供し、具体的な取り組みを行う際の参考とさせていただきますと思います。</p>
薄葉 正勝	JA東西しらかわ 営農部次長	<p>①賑わいのある村づくりと人づくり 1) 村への愛着を感じている人の割合が低い。特に若い世代の数値を上げる必要がある。 若い人達が愛着を持たなければ人口の流出は防げない。(対策:給食費免除、交通費補助など) 2) 若い人達は、何を望んでいるのかアンケート調査から見えてくるものを検証する。 座談会を実施して未来を語る機会を作ることも必要。</p> <p>②稼ぐ力と雇用創出 中山間地域の特色を生かした農業ビジョン確立。</p>	<p>①1) 移住定住・子育て支援プロジェクトチームで人口減少に歯止めをかける政策について村長に提言しました(別紙参照)。 ①2) 若い人達へのアンケート調査については、子育て世代に対して行います。また、単身者(独身者)も含めて意見を徴取できるようなアンケート以外の方法も検討します。座談会については、村内の20代から30代を対象として令和2年度から若者未来創出会議を開催していますが、なかなか参加者が増えない現状があります。</p> <p>若い人達が参加しやすいテーマでの座談会について、委員の皆さんからもご提案いただきながら官民協力して進めていきます。</p> <p>②ご意見として承りました。</p>

総合戦略主要施策の進捗状況一覧

資料 3

基本目標	主要施策	KPI（重要業績評価指標）	担当課	項目	現状値	令和3年度	令和4年度
				目標値	設置	設置	設置
賑わいのある村づくりと人づくり	ふるさとキャリア教育と子育て支援プロジェクト	「子ども子育て協議会」の設置	教育課 住民福祉課	実績値	－ (R2)	－	－
				前年比較	－	－	－
				目標値	80.0%	80.0%	80.0%
		村に愛着を感じている中学生の割合		実績値	64.7% (R2)	－	－
				前年比較	－	－	－
				目標値	設置	設置	設置
	移住・定住支援 空き家の活用プロジェクト	移住コーディネーター設置	総務課	実績値	－ (R元)	－	－
				前年比較	－	－	－
				目標値	20件	20件	20件
		移住コーディネーターによる移住相談件数		実績値	－ (R元)	－	－
				前年比較	－	－	－
				目標値	5件	5件	5件
	空き家紹介件数	実績値	0件 (R元)	0件	5件		
		前年比較	－	－	↑		
		目標値	300人	300人	1,000人		
	観光資源の活用と交流・関係人口増加プロジェクト	さがわファンクラブ会員数	農林商工課	実績値	－ (R2)	500人	800人
				前年比較	－	↑	↑
				目標値	20,000人	20,000人	20,000人
		鹿角平観光牧場利用者数		実績値	16,975人 (H31)	11,465人	9,290人
				前年比較	－	↓	↓
				目標値	2,000人	2,000人	2,000人
	村内宿泊施設利用者数	実績値	1,476人 (H31)	199人	634人		
		前年比較	－	↓	↑		
		目標値	7,000人	7,000人	7,000人		
村民の生涯現役プロジェクト	公民館利用者数	教育課	実績値	6,598人 (R元)	4,033人	5,301人	
			前年比較	－	↓	↑	
			目標値	4,000人	4,000人	4,000人	
	図書館利用者数		実績値	3,888人 (R元)	3,750人	3,502人	
			前年比較	－	↓	↓	
			目標値	4,800冊	4,800冊	4,800冊	
図書館外貸出実績	実績値	3,202冊 (R元)	3,818冊	3,422冊			
	前年比較	－	↑	↓			
	目標値	65.0%	65.0%	65.0%			
健康増進のための 取り組みをしている人	手まめ館利用者数	農林商工課 地域整備課	実績値	82,500人 (R元)	67,801人	66,000人	
			前年比較	－	↓	↓	
			目標値	3回	3回	3回	
	マルシェ等のイベントの開催		実績値	3回 (H30)	－	2回	
			前年比較	－	↓	↑	
			目標値	40人	40人	40人	
産業振興と担い手育成・ 創業支援プロジェクト	認定農業者数	農林商工課	実績値	38人 (R2)	34人	27人	
			前年比較	－	↓	↓	
			目標値	5地区	5地区	5地区	
	「人・農地プラン」作成地区数		実績値	2地区 (R2)	5地区	9地区	
			前年比較	－	↑	↑	
			目標値	320 t	320 t	320 t	
環境維持に向けた組織化と 雇用創出プロジェクト	薪買取量	農林商工課	実績値	260 t (R元)	484 t	56 t	
			前年比較	－	↑	↓	
			目標値	300 t	300 t	300 t	
	薪販売量		実績値	286 t (R元)	271 t	292 t	
			前年比較	－	↓	↑	
			目標値	4,500万円	4,500万円	4,500万円	
すまいる 年間販売額	農林商工課	実績値	4,100万円 (R元)	4,765万円	4,672万円		
		前年比較	－	↑	↓		
		目標値	150人	150人	150人		
		すまいる 宅配利用者	実績値	92人 (R2)	92戸	89戸	
			前年比較	－	→	↓	
			目標値	70.0%	70.0%	70%	
村内の商店や直売所で 買い物している人	実績値	60.7%	－	－			
	前年比較	－	↓	→			
	目標値	3回	3回	3回			
マルシェ等のイベントの回数	農林商工課	実績値	3回 (H30)	－	－		
		前年比較	－	－	－		
		目標値	設置	設置	設置		

【世代を繋なぎ人を睦む村づくり】

稼ぐ力と雇用創出